



## 目的

### 熊本市教職員等の資質向上に関する指標を“自分ごと”にする



令和5年度に教育センターより提示された「熊本市教職員等の資質向上に関する指標」に関して理解を深め、経験ステージ別にグループワークにて経験や実務の振り返り、相互共有を行う。自分のこれまでとこれからを考える機会にする。

## 参加者

会員91名 会員外2名

## 講師

熊本大学 特任教授 前田 康裕 氏  
尚絅大学 教授 平野 修 氏  
教育センター 主任指導主事 富田 裕 氏



## 内容

1 開会および会長挨拶	13:20
2 遠藤教育長挨拶	13:25
3 講師紹介	13:35
4 講話	13:40
5 グループワーク	15:35
6 ふりかえり	16:40
7 閉会	16:45



富田 裕氏      前田 康裕氏      平野 修氏

## 研修会の様子

### 講話

富田先生：指標を作成した経緯や考えをご説明いただきました。

前田先生：主体的に学ぶことや対話することで自分や周りにどのような効果があるかをお話いただきました。

平野先生：校長としての経験から事務職員へ感謝の気持ちや想いをお話いただきました。



### アイスブレイク



各グループでグループ全員の共通点を話し合ってもらい、共通点が一番多かったグループに発表していただきました。一番共通点が多かったグループは1～6年目のグループ。「7月に年休とりました!」「韓国ドラマ好き」「日焼け止め塗ってきた」など、共通点探しを通してたくさん対話された様子がうかがえました。アイスブレイクを通して、グループでの対話しやすい雰囲気づくりができました。

**グループワークとPadret（パドレット）を使った全体共有**  
 指標をもとに「自分ができていること・悩んでいること・それを解決するための手立て・明日から試してみたいこと」をグループでたくさん会話していただきました。グループで出た考えをパドレットを用いて全体で共有しました。考えを共有することでさらに会話も生まれ、どのグループも活発的に意見が出ていました。



## アンケート結果



お忙しい中アンケートにご協力いただきありがとうございました。一部抜粋して掲載させていただきます。

### 研修全体の感想

- 講師の先生のお話がとても面白く、勉強になりました。
- 講師の方々も多方面からの内容であったし、資質向上に関する指標も熟読する機会がないので、難しくはあったがいい機会になった。
- 経験年数が近い方と、困っていることや対処法など共有できてよかったです。
- わからない業務でも主体的に学ぶ姿勢は大切だと感じました。
- 指標に書いてあることは難しくわかりにくいですが、みんなで話すことでなんとなく「こういうことかな」と思えた。自分の思いを言葉に出すことが大事だと感じた。

### 明日から実践できること・したいこと

- 雑談を増やしてコミュニケーションをとる。
- 事務室からの情報を先生方へ具体的に発信すること。
- 当たり前だと思い込んでいたことを、多角的な視点で見していきたい。
- 授業研・校内研に参加してみようと思います。
- 指標へのつながりとなるかはわかりませんが、業務の可視化ツールとして生成AIの活用を広げたいです。

### 今後受けてみたい研修・講話

- 自家用車出張旅費・施設修繕について
- 共済組合の手続き
- とにかく集まる機会がほしいです。
- 今回の研修のように、マニュアルでは解決しないような研修が必要。
- 教職員や保護者との円滑なコミュニケーションを行うためのスキル研修
- 徴収金をみんながどんなふうに行っているのか知りたい。

### 研修の様子とアンケートの結果より

令和5年に教育センターより提示された「熊本市教職員等の資質向上に関する指標」をもとに経験ステージ別にて理解・相互共有を深める研修を行いました。事前アンケートでは「難しい、わからない、日々繁忙のため指標を意識する余裕もない…etc」と指標に対するマイナスイメージが多かったのですが、研修後のアンケートでは「自分の現状と指標を照らし合わせることができた」「みんなで話すことで少し理解できた」と参加者が理解を深め、「事務室から情報発信して、今までよりも先生方とコミュニケーションをとります！」などプラスの意見が増えていました。指標をもとに皆で対話することで自分について見つめなおすいい機会になったのではないのでしょうか。また、講師の方々からの指標に対する説明、対話で得られる力、面白い経験談、考え方のアドバイスなどを受け、各グループが活発に意見を出し合っている姿も印象的でした。

今回の事後アンケートで、「経験年数の近い先生方と意見を久々に交わすことができよかった！モチベーションにつながった！」という意見が多かったように感じます。来年度も私たち事務職員のモチベーションをUP↑させられるような研修ができるよう研究部内でも検討していきます。